

○暑さ寒さも彼岸までとか、彼岸の声を聞くところ雪にうずもれた北海の地にもやわらかな春の日ざしが訪ずれ、吹く風にもなんとなく春が感ぜられる。鉢植された福寿草もその福々しい顔をはこぼせているようだ。

○年度末を迎え、34年度の多難であつた悪夢から解放されるよろこびと、新体制を約束された35年度の希望に、なにかしらホツとしたものを感じる。しかしこれも実現あつての解放であり、希望であるはずで、その点大きな明暗が横たわつている。北洋問題等国際的にも云々されている折も折、陰の力となるこの増殖事業に携わる者の岐路が来たと云えよう。大いに反省すべきだ。

○本誌も35年度から新体制に即した、内容あるものにしようと思集委員一同頭を悩ましているが、なにしろ、しばられた予算の中でのことであり、大きな発展は望めそうもなく、この点読者諸賢の絶大なるご援助とご指導をお願いします。

○3月12日、13日の2日間にわたつて全道的に暴風雨に見舞われた。特に根室、北見方面がものすごく、支場や事業場では大きな被害を蒙つたが、収容した卵が丁度孵出する時期でもあり、現場職員の苦労は大変なもので、中には濁流に一時もつかつて流されるふ化槽を喰い止め、疲労のために倒れたという話も聞いており、これら現場職員のご苦労に対し、心から感謝とお見舞を申し上げる。

○日吉氏に本当に無理なお願ひをして、本号に“鮭鱒料理雑話”を戴いた。このカットと別掲ローマの壺のカットは氏の筆になるもので、絵においても素人ばなれた立派なもので、お忙しい中をご投稿下さつた氏に対し、厚くお礼申し上げますの次第です。

○いつもお願いしていることですが、見返し写真が不足して編集室も困却しておりますので、未発表の作がありましたらご投稿下さるようお願いいたします。

「魚と卵」編集委員会

農林事務官 秋庭鉄之 技術吏員 大東信一

農林事務官 佐々木正夫 技術吏員 大屋善延

札幌市外中の島(TEL ④ 211)

発行 北海道さけ・ますふ化場 場長 荒井定治
北海道立水産孵化場

印刷

中西写真製版印刷株式会社